

領域	専門基礎分野	授業科目	微生物学Ⅱ	単位(授業時間/時間数)	1(28/30)
開講年次	1年次	開講時期	後期	授業回数	14回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	—			—	

### 授業のねらい

専門基礎科目としての微生物学は、病理学や公衆衛生学のほか、多くの看護専門科目の基盤をなしている。その内容は、細菌学、ウイルス学、真菌学、原虫学などに分けられ、さらに、これらの科学と不離の関係にある免疫学、感染予防学および滅菌・消毒学をも包括する“総合的な専門基礎科目”である。

看護業務を志す人達は、これらの微生物学の体系的な基礎知識をしっかりと身につけることによって、医療技術の専門家としての自覚と自信をもって感染症患者に適切に対処できるようになる。この教育目標の下に授業計画を立てた。

授業内容は、それぞれの微生物ごとに特徴を熟知させて、その病原性、治療及び予防法などの基礎的知識を広く学習する。最近、大きな社会問題となっている医療事故が、医療現場における微生物汚染に起因している事例がきわめて多い。この点を重視して、院内感染・医療器具の汚染などを防止するためのリスク・マネジメントについて解説し十分修得させる。また、抗細菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗原虫薬などの作用メカニズムを理解させる。

### 授業目標

病原微生物について理解する。

### 授業概要

1. 細菌の性質・病原細菌と細菌感染症
2. 真菌の性質・病原真菌と真菌感染症
3. 原虫の性質・病原原虫と原虫感染症
4. ウイルスの性質・病原ウイルスとウイルス感染症
5. 化学療法薬の作用点

### 授業の進め方

細菌学、ウイルス学、真菌学、原虫学の総論と各論について、常に社会的ニーズを視野に入れながら学習を進める。最近、世界的に注目されているSARS、MERS、エボラ出血熱、デング熱などのウイルス感染症およびプリオン病(ウシ海綿状脳症など)についても、解説する。また、それぞれの微生物の性質をふまえ、化学療法薬の作用点を解説する。

### 教科書

ビジュアル微生物学(ヌーヴェルヒロカワ)

### 参考図書

### 評価方法

終講時 客観式テスト(100点)

筆記試験を行う。その内容の深さや範囲については、例年の看護師国家試験の内容を参考にしながら、その枠から逸脱しない範囲内で出題する。

試験時間は時間数に含む。